

家政行動に及ぼす個人的価値の考察(その1) ホンネ意識とタテマ意識
 愛知教育大家政(非) ○田中正紀 愛知商高 家田恒子 福山女学園大家政
 山口久子 金城学院大 今井光映

目的 これまでに、購買行動の実態と購買価値の測定について、「近代家計簿の改善」を通して、その研究を進めてきた。しかし、それは家計簿に記帳された行動の結果を価値別に分析し検証したもので、深く個人の心理的内部要因を析出するまでには至らない。そこで、今回はこの面に研究の焦点をおき、家政行動を対象として、家政行動に及ぼす意識はいかなる価値と意味を付与し、どのような効果を収め、なにを期待しているかを明確にしたいと考え、まず、はじめに価値観を構成するホンネ意識(欲求性向)と、タテマ意識(規範意識)の両面から家政行動の真意を掌握するための調査と分析を行った。

方法 調査方法: 質問紙配布によるアンケート調査(自記式留置法) 調査対象: 愛知県在住の主婦、482名(年齢25~35才の若年層、282名、40~55才の高年層、230名) 調査時期: 昭和56年5月下旬~6月上旬、有効率: 90%、分析手法: 単純、クロス集計、多変量解析数量化II類、PPSSパッケージ法

結果 分析結果から次の特質が析出された。①全般的にみて、規範意識、欲求性向ともに「健康」「安定」「規範」の価値領域に肯定的な態度が多くみられ、とくに「健康」「規範」は、衣、食生活領域にこの傾向が強い。②規範意識では、全体での「能率」と、衣領域の「経済」に否定的態度がみられ、欲求性向では、衣領域の「経済」と食領域の「満足」に、全体では「能率」「発展」「規範」などに否定的態度がみられた。③規範意識と欲求性向との乖離が著しいのは、「快適」「創造」「経済」と、衣・食領域以外における「発展」「規範」などである。以上の結果を更に発展させるために、多変量解析を行なった。